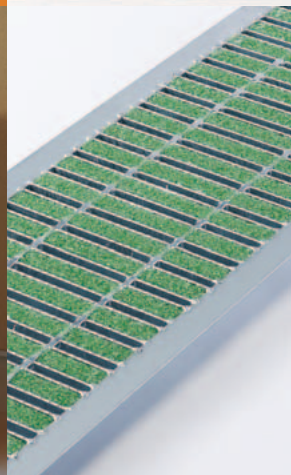


第113期

平成23年4月1日～
平成24年3月31日

株主の皆様へ

YODOGAWA STEEL WORKS



- Steel sheet
- Building material
- Exterior
- Roll
- Grating

株式会社 **淀川製鋼所**

証券コード5451



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社の第113期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の事業の内容につきましてご報告申し上げます。

平成24年6月



代表取締役会長
國保 善次



代表取締役社長
河本 隆明

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災後の落ち込みから期間の前半に震災前の水準近くまで回復しましたが、期間の半ばから世界経済への不安材料が色濃くなるなかで円高と株価低迷が続き、秋以降はタイ洪水の悪影響も重なり停滞を余儀なくされました。2012年に入り、欧州債務危機問題への過度な悲観論が後退し、米国も回復基調であったことから、行き過ぎた円高の修正と株価の回復が見られましたが、国内の景気回復は力強さを欠く状況が続きました。

国内鉄鋼業においては、期間のはじめに一部復旧需要がありましたが、国内経済の停滞に伴う需要の弱含みから市況は軟調に推移しました。秋にはタイ洪水の影響から鋼材輸出が大幅に減少する一方で、円高により輸入材が急増しました。2012年に入り円高の修正に伴い輸入材の増加は頭打ちとなり、自動車など需要産業の一部で需給増加の動きが見られますが、国内の鉄鋼需給は斑模様の状況となっております。なお、鉄鋼主要製品の価格は期間の前半は上昇基調でしたが、後半は国内市況の軟化とともに下落傾向となりました。

このような環境下において当社グループは、鋼板関

連事業では東北地方を中心とする住宅建材向け鋼板商品やエクステリア商品などの復旧需要に応えるとともに、市況の軟化するなか積極的な販売に努めました。ロール事業では震災被害を受けた顧客の設備復旧へのサポートや鉄鋼向け厚板用ワークロールの受注などに注力いたしました。

台湾の子会社センユースチール社については、輸出売上高は前期よりやや減少しましたが、台湾国内の売上高が伸びたことから前期比で増収となりました。

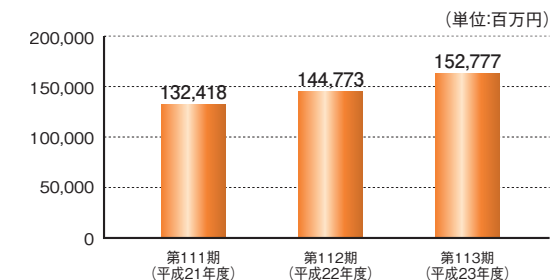
以上の結果、当社グループの当連結会計年度の業績は、売上高1,527億77百万円(前期比80億3百万円増)、営業利益64億13百万円(同21億89百万円増)、経常利益75億8百万円(同27億59百万円増)、当期純利益38億44百万円(同21億17百万円増)となりました。

また、当事業年度の期末配当金は、1株当たり5円とし6月27日よりお支払いすることといたします。これにより1株当たりの年間配当金は、中間配当金とあわせて10円となります。

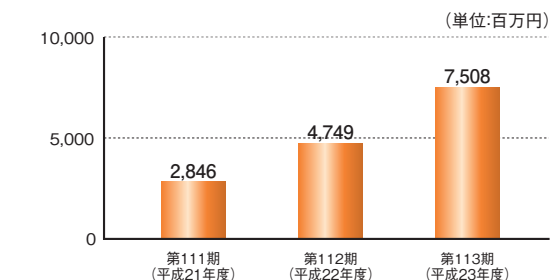
株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

連結業績の推移

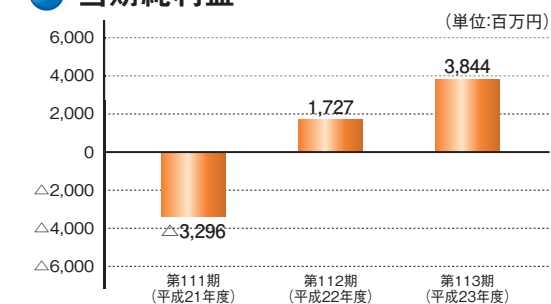
● 売上高



● 経常利益



● 当期純利益





代表取締役社長 河本 隆明

「自主自立」を貫き、 企画力・総合力を発揮 して新たなステージへ

Q¹ 4月1日に社長に就任されました。まず、抱負をお聞かせください。

A¹ 社長就任は全く予想していなかったことですが、これまで呉工場、市川工場の工場長を務め、台湾のセンユースチール社で海外も経験させていただいた。そうした経歴を活かして、この難しい時代を生き抜くために力を尽くしなさいという意味での指名であったと思います。

私は、工場長時代から真のベストプラクティスの模索に力を注ぎ、さらに、“PDCAサイクル”もPlan(計画)、Do(実行)だけで終わらずCheck(評価)、Act(改善)まで貫徹することを大切にしてきました。つまり、置かれた状況の中で最も合理的かつ効率的な方法を考え、それを着実に実行、評価、改善していくということです。それは最終的に、ヨドコウの諸先輩が貫き続けてきた「自主自立」の経営を強化することにもつながります。今後もこうしたことを方針の根底に据え、経営の任に当たっていきたくと考えています。

Q² 経営環境については、どのようにお考えでしょうか？

A² 世界経済は、欧州債務危機の再燃など不安定な状況が続いています。為替の動きも予断を許さないものとなりそうですが、長期的には、先進国がさまざまな危機に揺さぶられつつもゆっくりと回復していき、新興国の旺盛な成長力がこれを下支えするという構図が続くものと考えられます。

鉄鋼業界に関しては、国内では復興需要が期待されますが、これは一時的なものと考えべきものです。景気の低迷に人口減少という構造要因も重なって本来の需要は伸び悩んでいます。国内需要の縮小トレンドは今後も続くものと覚悟しなければなりません。寡占化による原料価格の高騰・不安定化も続き、厳しい状況は変わりません。一方、海外では新興国の鉄鋼需要が堅調に伸びています。

しかし、国内は諦めて海外で埋め合わせるというスクラップ&ビルドは考えていません。国内の業績を維持しつつ海外に進出してこそ、成長が望めます。

Q³ 成長をもたらす海外進出について中期的に描いておられるビジョンとは？

A³ 海外の新たな生産拠点として、現在、中国とタイに新しいラインを建設中です。中国では、当社とセンユースチール社



淀川盛餘(合肥)高科技鋼板有限公司 完成イメージ図

の共同出資により淀川盛餘(合肥)高科技鋼板有限公司を設立し、2013年4月の稼働に向けめっきライン・カラーラインを建設しています。日系メーカーも含めた需要を一から掘り起こす計画で、センユースチール社と一体となり多くの人材を投入していますが、彼らが力を発揮してくれることと



PPT社 カラーライン完成イメージ図

期待しています。一方タイでは、子会社のPCM PROCESSING (THAILAND) LTD.(PPT社)に、2013年1月稼働

予定でカラーラインを建設しています。両社とも将来的には現地化し、それぞれ独り立ちすることを目標としています。

またエンジニアリング事業では、ウガンダ(アフリカ)のRRM社と、資本提携を視野に入れながら製造設備を受注し、操業ノウハウを供与する案件も進行中です。

当面は、これらのプロジェクトのスムーズな立ち上げが課題となりますが、アジアでの他のプロジェクトも検討が必要と考えています。

Q⁴ 市場自体の拡大が望めない国内ではどのように活路を拓いていくのでしょうか？

A⁴ これは、国内の事業に限ったことではありませんが、これからは“企画力”と“総合力”が非常に重要になってくると考えています。空洞化が懸念される国内において業績を維持・伸ばしていくには、シェアを高めるしかありません。そのためには、例えば屋根工事の引き合いをいただければ、壁材やグレーチングなども含めた企画を提案する、あるいは、

これまでだれも手をかけなかったニッチな部分を企画・提案するといったヨドコウの総合力で、道を切り拓いていきます。

それにつながる施策として、事業部間の情報の共有化や人事異動による人材の交流なども進めています。

2013年には、先程ご説明しましたとおり海外で建設中のラインが完成します。国内外ともにラインをフル稼働して成長を遂げていくには、企画力と総合力で市場に展開していかなければなりません。

Q5 企画力の一翼を担う商品開発についても今後の方針をお聞かせください。

A5 ヨドコウグループは、「新しい個性を持った価値の創造」を企業理念とし、その具現化に向け「安全・安心・環境・景観」という4つのキーワードを掲げています。

現状の一例を説明しますと、鋼板商品は、環境負荷物質である六価クロムを含まず、かつ耐食性・耐候性に優れたクロメートフリー鋼板をいち早く開発し、家電などの屋内器物用から屋根・壁材など、より厳しい環境で使用される外装用まで塗装鋼板・めっき鋼板のクロメートフリー化を実現しています。

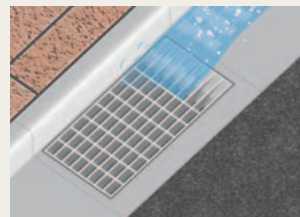


建材商品では、国内トップクラスの試験設備を有し、より安全・安心を追求したものづくりに取り組んでいます。「ヨドルーフ」は、優れた施工性を活かし、巨大で意匠性の高いJR大阪駅大屋根を実現しました。積載荷重の制約条件から屋根上に太陽電池の設置が難しかったさいたまスーパーアリーナには、軽量かつ高強度なソーラーパネル「ファインソーラー」を提案し採用されました。また、

オープンスペースを組み合わせたガレージ「ラヴィージュ」と物置「エルモコンビ」は、エクステリア空間へのユーティリティ性提案が高く評価され、好調な販売を維持しています。



エルモコンビ



越流抑制商品「ヨドウォーターフォールズ」

グレーチングでは、昨今急増するゲリラ豪雨時の越流に対し、従来品よりもはるかに高い集水効果を発揮する「ヨドウォーターフォールズ」を開発しました。

今後の商品開発においても、この4つのキーワードを元に新しい価値の創出に継続して注力し、オンリーワン、ナンバーワンのものづくりで“個性ある価値”を備えた商品を提供することで顧客満足を生み出していきます。また海外展開でもこの方針を貫き、グループ全体での企業価値向上につなげていきます。

Q6 今期に関しては、どんな展望をお持ちですか？

A6 世界経済は、すでに触れた通り欧州債務危機問題が一進一退を繰り返し、中国経済は成長の鈍化が懸念されるなど、予断を許さない状況が続いています。鉄鋼市場においても、中国の供給過多に伴う輸出量の増加が、北米や日本を含むアジア市況に影響を及ぼすことが懸念されています。

国内経済は、震災復興需要が期待されるものの、原子力発電所再稼働問題に伴う電力供給不足への懸念、電

力料金や原油価格の上昇、輸入鋼材の増加など、国内鉄鋼業にとって気がかりな動きも多々見られます。

当社にとっては、主原材料である熱延鋼板の価格動向が不透明で、業績予想も容易ではないのが現状です。そんな中でも国内営業基盤の強化およびグローバル展開という施策をしっかりと進めていくことで、よりよい結果が得られるものと考えています。

Q7 被災地への復興支援および新型物置のプロモーションについてお聞かせください。

A7 東北復興支援の一つに、企業や個人・団体からの寄付金をもとに、被災地に1,000本ずつ桜を植樹していく「SAKURA+PROJECT(サクラプラス・プロジェクト)」があります。当社は、中長期の復興支援を目指すこのプロジェクトの趣旨に賛同し、また当社大阪工場には見事な桜並木があり、社章にも桜をあしらうなど、桜と縁が深いこともあって参画を決めました。3月1日からヨド物置の売上の一部を同プロジェクトに寄付しています。



▲SAKURA+PROJECTのロゴマーク

◀大阪工場の桜並木

また、2月に「新型エスモ」の発売に合わせヨド物置のイメージキャラクターにAKB48の篠田麻里子さんを起用しました。当社としては初の有名タレントの起用であり、意外性にも富んでいたことから、一般のお客さまや販売店さ



▼TVCM

▲ポスター



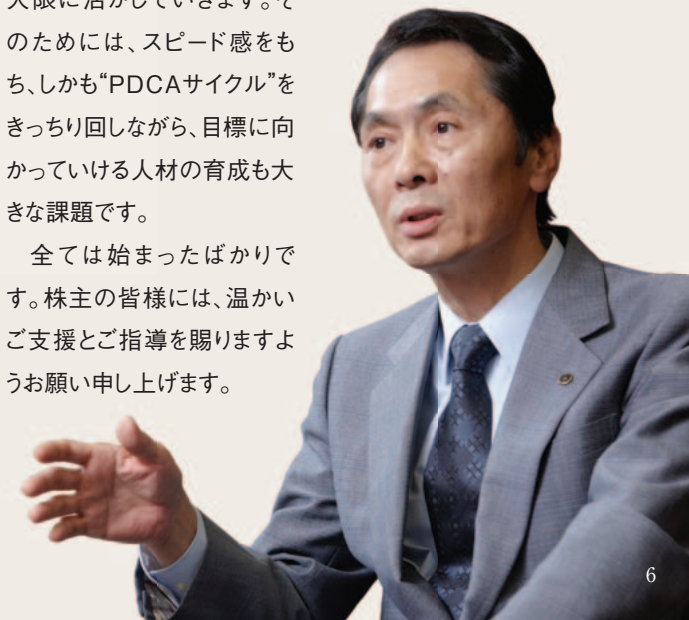
ま、代理店さまを始め各方面から大きな反響がありました。また、社内の一体感の醸成にもつながったと思います。

Q8 最後に、株主の皆様へ新社長としてのメッセージをお願いします。

A8 トップの人選は企業価値を左右するほどの重要事項です。社長就任の重責をしっかりと受け止め、全力を挙げて課題に取り組んでまいります。

「自主自立」の経営には厳しさもありますが、他社とのアライアンスもバランスよく取り入れながら、機動力を最大限に活かしていきます。そのためには、スピード感を持ち、しかも“PDCAサイクル”をきっちり回しながら、目標に向かっていける人材の育成も大きな課題です。

全ては始まったばかりです。株主の皆様には、温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

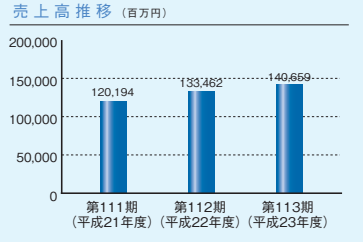


事業概要



鋼板関連事業

主な製品
冷延鋼板、磨帯鋼、カラー鋼板、ガルバリウム鋼板ほかの表面処理鋼板、建築材料(屋根材、壁材など)、建設工事の設計および施工、エクステリア商品(物置、ガレージ、自転車置場、ダストビットなど)



ヨドソーラーパネル ファインソーラー壁面設置

鋼板関連事業

鋼板業務 国内需要の捕捉・深耕 海外事業のスムーズな立ち上げ

仮設住宅などの震災復旧需要に加え需要家へのきめ細かい営業活動に注力し、販売量は増加。

販売価格改定は、震災の影響などから上期は小幅な進捗にとどまり、下期は国内需要の不振、安価輸入材の影響もあり値下げ圧力が強まりました。

2013年には、中国・YSS社*1のめっき・カラーライン及びタイ・PPT社*2のカラーラインが稼働。それに向け今後は、本格的な営業活動を行い、スムーズな立ち上げを目指します。

2012年度は、景気の不透明感のなか、各分野とも迅速かつ確実に需要を捕捉し、生産性と採算性の向上を図ります。

*1 YSS社: 淀川盛餘(合肥)高科技鋼板有限公司
*2 PPT社: PCM PROCESSING (THAILAND) LTD.

建材業務 積極的なプロモーションもあり増収 高機能商品の開発・提案・拡販に注力

建材商品は、屋根材「ルーフ」が増加。また節電意識の高まりによる断熱パネルの需要増加もあり増収。北海道では、積雪の影響を受けずに発電量を確保できる壁面に太陽光発電パネル「ファインソーラー」を設置した物件を完工いたしました。

エクステリア商品は、震災関連需要などもあり増収。物置は2月に「新型エスモ」を発売。ヨド物置のイメージキャラクターに、AKB 48の篠田麻里子さんを起用したCMやユーザーキャンペーンなど積極的なプロモーションで好調に推移。また、オープンスペースを併設したガレージ「ラヴィージュ」と物置「エルモコンビ」は、用途提案型の商品として好評を得ています。

今後とも高機能商品の開発、提案、拡販に取り組みます。

(注)第112期より現在のセグメントといたしました。なお第111期は現在のセグメントに準じて調整しています。

ロール事業

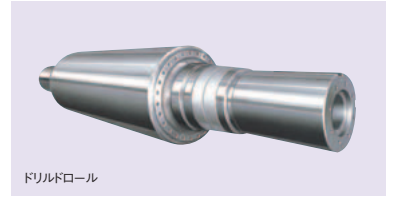
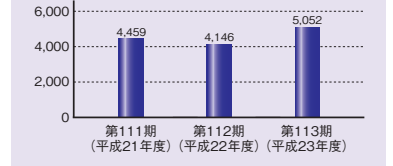
鉄鋼向け・非鉄向け共に出荷増 提案型営業に注力

鉄鋼向け、非鉄向けロールとも販売量が伸び、増収。国内で鉄鋼向け厚板用ワークロールの出荷が高水準で推移。非鉄向けは、製紙会社の震災復旧工事に協力しました。また太陽光発電パネルの保護フィルムを製造する設備や自動車タイヤを製造する設備に使用するドリルドロールが好調に推移。

今後、厳しい市場環境が予想されるなか、非鉄向けは設備メーカーと緊密に連携し拡販に注力し、製紙向けでは、アンドリツクスタース社(ドイツ)と技術提携している2品目(紙の品質向上に貢献するプロソフトと抄紙設備の省エネに貢献するシュープレス)の受注活動に努めてまいります。

ロール事業

主な製品 鉄鋼用ロール、非鉄用ロール
売上高推移 (百万円)



ドリルドロール

グレーチング事業

需要低迷・熾烈な価格競争のなか 高機能商品の拡販に注力

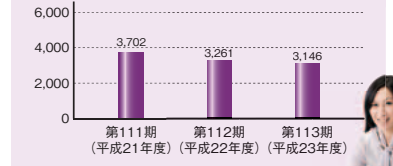
公共事業発注の低迷と本格的な震災復興事業の遅れなどから厳しい市場環境となり、販売数量は前期と比べ微減でしたが、海外品を含めた熾烈な価格競争の影響で減収。

販売量の減少を補うべく防衛省案件、発電所案件、高速道路案件等の大型物件を受注し量の維持に努めるも、民間物件においては価格競争がさらに激化しました。

引き続き海岸地区に求められる高い耐食性を持つ「ヨドガルファングレーチング」や開閉が楽にできる「ヨドかるがるグレーチング」など高機能商品の拡販に取り組みます。

グレーチング事業

主な製品 グレーチング
売上高推移 (百万円)



ヨドかるがるグレーチング

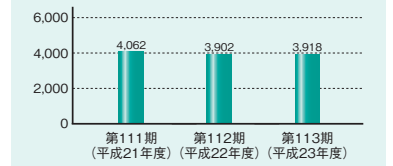
不動産事業・その他事業

不動産事業は、ビルの賃料が減少したことから減収。その他事業は、海外向けプラントが、急激な円高や海外メーカーとの価格競争となり厳しい状況。一方で、運輸・倉庫業の売上が伸びたことから増収。

エンジニアリング業務では、2010年12月に受注したウガンダの鋼板メーカーRRM社向けめっきライン及びカラーラインを2012年度中の稼働を目指し、設備の製造・検査・出荷を行う予定です。

不動産事業・その他事業

不動産事業 ビル賃貸、駐車場経営
その他事業 機械プラント、ゴルフ場経営、倉庫業、運送業
売上高推移 (百万円)



連結決算の概要

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当 期 平成24年3月31日	科目	当 期 平成24年3月31日
【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	100,249	流動負債	25,856
現金及び預金	22,723	支払手形及び買掛金	15,079
受取手形及び売掛金	35,576	そ の 他	10,777
有 価 証 券	11,308		
棚 卸 資 産	25,895	固定負債	12,384
そ の 他	4,942	退職給付引当金	6,988
貸倒引当金	△ 197	長期預り保証金	3,281
固定資産	77,706	そ の 他	2,113
有形固定資産	43,651	負 債 合 計	38,240
建物及び構築物	13,440		
機械装置及び運搬具	10,813	【純資産の部】	
土 地	18,336	株主資本	127,848
そ の 他	1,060	資 本 金	23,220
無形固定資産	356	資 本 剰 余 金	23,497
投資その他の資産	33,699	利 益 剰 余 金	90,758
投資有価証券	30,343	自 己 株 式	△ 9,627
そ の 他	3,375	その他の包括利益累計額	84
貸倒引当金	△ 19	その他有価証券評価差額金	3,816
		土地再評価差額金	1,560
		為替換算調整勘定	△ 5,292
		新株予約権	118
		少数株主持分	11,664
		純 資 産 合 計	139,716
資 産 合 計	177,956	負債及び純資産合計	177,956

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当 期 平成23年4月 1日から 平成24年3月31日まで
売 上 高	152,777
売 上 原 価	132,417
売 上 総 利 益	20,360
販売費及び一般管理費	13,946
営 業 利 益	6,413
営 業 外 収 益	1,537
営 業 外 費 用	442
経 常 利 益	7,508
特 別 利 益	362
特 別 損 失	349
税金等調整前当期純利益	7,521
法人税、住民税及び事業税	2,815
法 人 税 等 調 整 額	229
少数株主損益調整前当期純利益	4,476
少 数 株 主 利 益	632
当 期 純 利 益	3,844

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当 期 平成23年4月 1日から 平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,972
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,469
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,134
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 294
現金及び現金同等物の増加額	4,074
現金及び現金同等物の期首残高	29,750
現金及び現金同等物の期末残高	33,825

株式の概要 [平成24年3月31日現在]

株式の状況

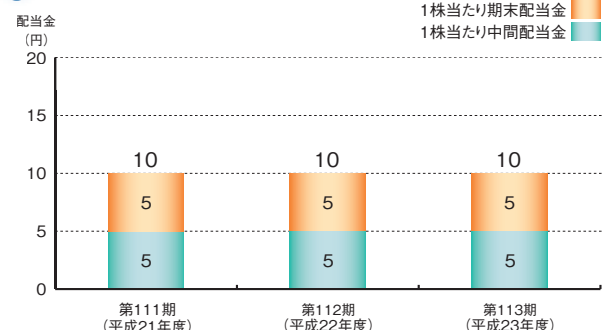
発行可能株式総数	753,814,067株
発行済株式の総数	184,186,153株
株 主 数	8,940名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,322	5.18
みずほ信託銀行株式会社	5,470	3.41
株式会社りそな銀行	5,342	3.33
株式会社みずほコーポレート銀行	5,310	3.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,030	2.51
日本生命保険相互会社	3,866	2.41
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	3,691	2.30
ヨドコウ取引先持株会	3,639	2.26
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,113	1.94

(注)当社は、自己株式23,815千株を保有しておりますが、上記大株主には含めておりません。また、持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

1株当たり配当金推移



会社の概要 [平成24年3月31日現在]

当社の概要

社 名 株式会社淀川製鋼所
 設 立 昭和10年1月30日
 資 本 金 23,220,815,228円
 従業員数 1,245名

当社の主な事業所

本 社 〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号
 支 社 〒104-0041 東京都中央区新富一丁目3番7号
 営 業 所 札幌、盛岡、仙台統括、新潟、長野、高崎、東京統括、横浜
 静岡、北陸、名古屋統括、大阪統括、神戸、岡山、福山、広島
 高松統括、高知、八幡、福岡統括、鹿児島、沖縄
 工 場 大阪(大阪府)、呉(広島県)、市川(千葉県)、福井(福井県)
 泉大津(大阪府)

当社の役員 [平成24年6月26日現在]

取締役	執行役員
代表取締役会長	國保 善次
代表取締役社長	河本 隆明
取 締 役	専務執行役員 西村 修
取 締 役	常務執行役員 大森 豊実
取 締 役	常務執行役員 林 眞生
取 締 役	石田 榮次
	上席執行役員 大森 眞
	上席執行役員 澤田 滋
	上席執行役員 鉄橋 彰
	上席執行役員 二田 哲
	執行役員 海老原洋一
	執行役員 渡辺 隆昌
	執行役員 服部 格
	執行役員 中野要一郎
	執行役員 河本 善博

※石田榮次氏は会社法に定める社外取締役です。

監査役	
監査役(常勤)	境口 勝己
監査役(常勤)	向井 信正
監 査 役	湯浅 光章
監 査 役	宇津呂 修

※湯浅光章および宇津呂修の両氏は会社法に定める社外監査役です。

株主メモ

決算日	3月31日
定時株主総会	6月開催
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要あるときは、予め公告して定めます。
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告 ※当社ホームページをご覧ください。 http://www.yodoko.co.jp/

株式に関するお手続きについて

株式に関するお手続きは、証券会社の口座に記録されている場合と、特別口座に記録されている場合で異なりますので、下記の該当窓口までお問合わせください。

証券会社の口座に記録されている株式		特別口座に記録されている株式	
お手続き・ご照会の内容	お問合せ先	お手続き・ご照会の内容	お問合せ先
<ul style="list-style-type: none"> ●単元未満株式の買取・買増請求 ●届出住所・氏名などの変更 ●配当金の受領方法・振込先の変更 	口座を開設されている証券会社	<ul style="list-style-type: none"> ●単元未満株式の買取・買増請求 ●届出住所・氏名などの変更 ●配当金の受領方法・振込先の変更 	特別口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
<ul style="list-style-type: none"> ●郵送物の発送・返戻に関するご照会 ●未払い配当金に関するご照会(※) ●その他の株式事務手続きに関するご照会 	株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部	<ul style="list-style-type: none"> ●郵送物の発送・返戻に関するご照会 ●未払い配当金に関するご照会(※) ●その他の株式事務手続きに関するご照会 	株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

(※)未払い配当金のお支払いについては、株式会社みずほ銀行本店及び各支店でもお取り扱いいたします。

みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 ご連絡先

電話…………… 0120-288-324 (フリーダイヤル)
インターネット…………… <http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>
郵送物送付先…………… 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

スチール! & アイデア! ヨドコウ

〒541-0054
大阪市中央区南本町四丁目1番1号
TEL.(06)6245-1111 (大代表)
<http://www.yodoko.co.jp/>

重要文化財 ヨドコウ迎賓館のご案内



フランク・ロイド・ライト 設計

開館ご案内

開館日 日・水・土・日曜日と祝日
開館時間 10時～16時(入館は15時30分まで)
入館料 大人・大学生 / 500円 団体 / 400円(30名以上)
小・中・高校生 / 200円 団体 / 100円(30名以上)

問い合わせ

淀川製鋼所 広報課 06-6245-9103
ヨドコウ迎賓館 0797-38-1720
<http://www.yodoko.co.jp/geihinkan/>

